



ニュースリリース

**CANADA BEEF INC.**  
310, 6715 – 8<sup>TH</sup> Street NE  
Calgary, Alberta T2E 7H7  
Tel: 403.275.5890  
Fax: 403.275.9288  
www.canadabeef.ca

2012年3月26日

## カナダビーフ インクは 日加経済連携協定（EPA）を歓迎

日本国内のカナダ牛肉産業にとっては前向きな一歩

2012年3月25日ーカナダビーフ インクは、日加経済連携協定の締結に向けて日本と自由貿易を巡る交渉を開始するとのスティーブン・ハーパーカナダ首相の発表を歓迎します。今回の決定は、カナダ産牛肉による無制限の日本市場アクセスを実現するうえで極めて重要な一歩になります。カナダ産牛肉・仔牛肉の市場アクセス拡大に向けた継続的な取り組みにおける、スティーブン・ハーパー首相、ゲリー・リッツ農務・農産食品大臣、エド・ファスト国際貿易大臣、ジョン・ベアード外相、カナダ政府のひたむきな努力にカナダの牛肉・仔牛肉産業は感謝しています。

カナダビーフ インクのブラッド・ウィルデマン会頭は「スティーブン・ハーパー首相と野田佳彦首相による、日加経済連携協定に関する発表については大変嬉しく思っている」としたうえで「安全で高品質なカナダ産牛肉へのアクセスが拡大することで日本の消費者に利益がもたらされる一方、カナダの畜産業および牛肉産業も、日本との貿易が拡大することで大きな恩恵を受ける」と述べています。

日本は、2003年5月に牛海綿状脳症（BSE）の発生がカナダで初めて確認されたのを受け、カナダ産牛肉の輸入を禁止しました。その後2005年12月までにカナダに対する輸入禁止措置を緩和し、21ヵ月未満の畜牛から得られる骨なし牛肉および骨付き牛肉と内臓に限り輸入を許可しました。国際基準は、そのような制限を設けることを推奨していませんでした。カナダ政府は2011年12月9日、日本が牛肉に関する国内・輸入規制の見直しを行っており、その結果カナダ産牛肉へのアクセスが日本で広がることを期待していると発表しました。

カナダビーフ インクのロブ・マイヤー会長は「日加経済連携協定に関する本日の発表は、カナダの牛肉・仔牛肉産業にとっては朗報である」と歓迎の意を表明し、「今回の決定を受けて、カナダ産牛肉による無制限の市場アクセスをいずれは日本が認めることを期待する。それが実現すれば付加価値の取れる商品およびその輸入量が大幅に増加す

るだろう」と話しています。2010年のカナダ産牛肉の日本への輸出高は8,140万ドルでした。少なく見積もっても、無制限の市場アクセスが実現すれば、年間輸出量は20,000トン、金額にすると1億2,500万ドルを超える可能性があります。

カナダの牛肉・仔牛肉生産者に市場拡大の機会をもたらす一環としてカナダビーフ インクは、カナダの牛肉・仔牛肉産業の主要取引先および後援者と関係を構築・維持し、日本市場では強い存在感を示しています。

マイヤー会長は「カナダ産牛肉・仔牛肉は、その質の高さが世界的に認められており、高品質なカナダ産牛肉・仔牛肉に対する日本の需要に今後も応えていきたい」と期待しており「日本における当社の取引先は、カナダ産牛肉が事業にもたらす価値を認識しており、それら取引先の顧客は、カナダ産牛肉の品質および味わいの虜になっている」と述べています。

カナダビーフ インクは、国内および海外の牛肉・仔牛肉市場の開拓を担う、畜産業者が出資・運営をしている組織です。当社は、カナダ、メキシコ、日本、香港、中国、台湾、韓国にて事業を展開しています。

詳細に関する問い合わせ先：

ブラッド・ウィルデマン (Brad Wildeman)  
会頭 (Chairman)  
カナダビーフ インク  
(306) 365-7289

ロブ・マイヤー (Rob Meijer)  
会長 (President)  
カナダビーフ インク  
(403) 690-7617

ロン・グレーザー (Ron Glaser)  
副会長、企業関連活動担当 (VP, Corporate Affairs and Operations)  
カナダビーフ インク  
(403) 826-1222

駐日代表 下嶋 大介  
カナダビーフ インク  
(03) 3546-6691